

進化経済学会
ニューズレター vol. 30
Jun. 2011

進化経済学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

国際文献印刷社内

T:03-5389-6493 E:evoeco-post@bunken.co.jp



<http://www.ne.jp/asahi/ab/frex/page018.html> から引用

*****記事*****

第15回進化経済学会サマリーズ

進化経済学会第V期第5回理事会記録

進化経済学会第15回会員総会記録

2010年度部会活動報告

寄稿：塩沢由典会員「進化経済学会の現状について」

学会員名簿異動

会員の新刊著紹介

進化経済学会・オータムカンファレンス・サマースクール案内

編集後記

第 15 回進化経済学会名古屋大会 大会報告

本年度の大会は「グローバル経済の危機と制度・企業の進化」を共通テーマとして、2011年3月19日(土)、20日(日)の二日間にあたり120名ほどの参加者を得て、名古屋大学東山キャンパスの経済学部・経済学研究科で開催された。

今回の大会は大震災直後であり、関東、東北地方の会員の参加が困難になる可能性があった。時間がなかったため正規の会議で審議することができず、開催校および会長、関連する理事の間で開催の是非を検討した。その結果、開催直前の変更と延期の困難さ、名古屋がまったく影響を受けず正常な開催が可能な状況にあること、東京電力福島原発事故の収拾の見通しが不透明なことなどの諸般の事情を考慮して、あえて予定通り実行することとした。そのため報告や大会参加がかなわなかった会員があった。またプログラムの変更もいくつか不可避となった。ここで実行委員会を代表して、会員各位、とくに大会に参加できなかった会員諸氏に対して、お詫びを申し上げます。

大会では震災被害救援のための義捐金が募られ、外国人特別報告の場では会長の発議で、犠牲となった方々に対する黙祷がささげられた。外国人特別報告者だったエドクヴィスト氏は、原発事故の危険性を配慮した西欧各国政府の渡航制限勧告にもかかわらず、あえて来名され、責任を果たされた。震災、原発事故、停電などの影響で中止を余儀なくされた学会、研究集会が多くあった中で、進化経済学会はこれらの困難にもかかわらず、会員および招聘報告者の努力に支えられて、学問的活動を保証していくという社会的責務を果たすことができた。

大会では5つの会場で、以下のような合計22のセッションが開催され、報告と活発な討論が行われた。

3月19日

10:00-12:00

社会経済学の諸次元、ゲーム論、イノベーションシステム、進化経済学の方法、価値と選択の理論、市場経済の機構と構造

13:00-15:00

貨幣・金融システムへの進化経済学的アプローチ、資本主義の制度進化、政府・公共部門のガバナンス、ドイツ社会国家の制度進化をめぐって、制度設計とガバナンス

15:10-17:10

観光学、制度設計とガバナンス

3月20日

10:00-12:00

経済開発と環境、制度生態系アプローチの理論と応用、進化と経済思想 (I)、マルチ・エージェント・シミュレーションと社会経済実験 (I)、企業システムの進化

14:00-16:00

マクロ経済の動態分析、進化成長理論と産業の多様化/ロングテールの視点から、進化と経済の思想 (II)、マルチ・エージェント・シミュレーションと社会経済実験 (II)、企業の理論

またポスターセッションを広く会員に公開するため、最も大きな会場であるカンファレンス・ホールを会員控え室およびポスター・セッション展示会場とし、土曜日の12:00-13:00にはその場でプレゼンテーションを行った。

「緑の産業革命?—世界金融危機以後のスマート成長論をめぐって」をテーマとしたオータム・カンファレンスに続いて、本大会では構造転換の理論的考察をめざし、大会校では二つの企画を準備した。初日19日の15:10-17:10には、山田鋭夫会員および名古屋大学経済学研究科の平川均氏を迎え、大会校企画セッション「グローバル資本主義はどこへ行くのか」が開催された。平川氏は長年の開発経済学研究を踏まえ、発展経済の新しいダイナミズムを考察する「東アジアの経済統合と構造転換—NIES から PoBMEs への転換と世界経済—」を報告し、山田会員は先進資本主義国の長期的な構造変化をテーマとして「世界金融危機と資本主義の動態」を報告した。これに続いて17:20-18:50には、イノベーション理論の大家であるルンド大学の Charles Edquist 氏が”Innovation systems and innovation policy”と題する報告を行った。エドクヴィスト氏は最近公的調達とイノベーションの関係の実証研究に従事してい

る。報告では、氏はクリス・フリーマンたちに始まるイノベーション・システム論を、自己の研究を踏まえ、多様な制度的観点から再構成する試みを行い、これに対してフロアからはいくつもの質問がされて、実りのある討論が行われた。

プログラムの変更が必要となったため大会校の企画は初日に集中することになったが、二日目には会員総会を挟んで 10 のセッションが開催され、同様に活発な報告と議論が行われた。

以上のように第 15 回大会は成功裏に幕を閉じた。

(長尾伸一)



進化経済学会第V期第5回理事会記録

記録作成者：理事・宇仁宏幸

日時：2011年3月19日（土）12時から13時00分

会場：名古屋大学経済学部・経済学研究科第1会議室

会長・副会長・20理事出席、委任8理事。

1. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者7名、会費滞納退会12名であるが、第V期第4回理事会での資格承認者が23名、当第3回理事会で資格審査される入会希望者が10名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員395名（休会3名含む）、院生会員87名（休会3名含む）、賛助会員（団体1・特別1）、招待会員2名で、計486会員になる。

2. 入会希望者10名について従来から適用した基準に照らして入会資格あるものとした。

<入会者は総会記録5を参照>

3. 澤邊常任理事から、2009年度と比べて会費納入状況が改善されたことや、ニューズレターのEメールによる送付で経費削減されたことなど、2010年度の会計状況の報告があり、それをふまえて平成23（2011）年度の予算案のたたき台が説明された。英文誌の機関講読と購入の拡大など収入の増加、経費の節減のための様々な提案がなされ、審議の結果、予算案が承認された。この年度の繰越額は370000円と予想される。2012年度に向けてさらに抜本的な収支改善策を考えるよう要請された。

<予算概要は総会記録7を参照>

4. 第15回大会の開催は、震災の発生を考慮して、会長・副会長・実行委員会で慎重に検討した結果、開催を決定したことが実行委員会の長尾理事から報告された。また、いくつかの報告のキャンセルは発生しているが、121

名というまずまずの参加者数となることや、大会関連経費も予算内に納まる見込みであることが報告された。第16回大会の開催大学である摂南大学に所属する八木会員から、オータムコンファレンスを9月10日、第16回大会を2012年3月17-18日に開催したい、またテーマとして「グローバルゼーション下の繁栄と格差」をとりあげたいと説明された。

5. 国際英文誌EIERの有賀編集委員長から第7巻2号の刊行状況が説明された。また、電子投稿審査システムが来年から新しいシステムに移行するので、それに伴い投稿数を年間50本以上にしたいとの説明があった。

6. 特別講演の冒頭で、震災被災者の冥福を祈り黙祷を捧げることを決定した。震災被災者への義援金の募金を実施し、その送付先については、被災した会員が存在する場合はその方に贈る、存在しない場合は日本赤十字社に贈ることを決定した。また、12月に役員選挙を実施することが承認された。

進化経済学会第15回会員総会記録

【記録

者：宇仁宏幸】

1. 進化経済学会第15回会員総会は、2011年3月20日（日）12時45分から13時20分まで、名古屋大学カンファレンスルームで開催された。

2. 会員総会の議長として、谷口和久会員が推薦され、承認された。

3. 吉田会長から挨拶があった。

4. 会員状況の報告があった。退会者4名、年度末退会者7名、会費滞納退会12名であるが、第V期第4回理事会での資格承認者が23名、当第3回理事会で資格審査される入会希望者が10名いるので、入会・退会の手続き後の会勢は個人会員395名（休会3名含む）、院生会員87名（休会3名含む）、賛助会員（団

体1・特別1)、招待会員2名で、計486会員になる。
 5. 第4回理事会で入会資格ありとされた23名と、第5回理事会で入会資格あるとされた以下の入会希望者10名を新会員として承認した。

高野 直樹 横浜国立大学大学院 国際社会科学
 科学研究科グローバル経済専攻
 牧野 邦昭 摂南大学経済学部
 松波 京子 名古屋大学大学院経済学研究科
 Mu-Jeong Kho Development Planning
 Unit, Bartlett Faculty of Built Environment,
 University College London (UCL)
 李 征 京都大学経済学研究科
 渡辺 直行 財団法人 土地総合研究所
 和田 謙一郎 四天王寺大学 人文社会学部
 人間福祉学科
 吉中 季子 大阪体育大学 健康福祉学部
 北沢 良継 九州産業大学経済学部
 畠山 光史 岡山大学経済学研究科

6. 2009年度の決算が示され、監査委員の評価を求めた上で、それを承認した。

<決算書は進化経済学会ホームページに近日中にアップする予定のニューズレター29号(修正版)に掲載>

7. 澤邊常任理事から、平成22(2010)年度の会計状況の説明と、平成23(2011)年度予算案の提案がなされ、審議の結果承認された。

<予算概要>

| | | |
|----|------------|------------|
| 収入 | 前年度繰越(見込み) | 840,000円 |
| | 会費 | 4,325,000円 |
| | 書籍売却代 | 200,000円 |
| | 計 | 5,365,000円 |
| 支出 | 大会費 | 1,000,000円 |
| | 英文誌刊行費 | 2,000,000円 |
| | 通信費 | 200,000円 |
| | 交通費 | 100,000円 |
| | 事務雑費 | 50,000円 |
| | 謝金 | 40,000円 |
| | 送金手数料 | 20,000円 |
| | 会議費 | 100,000円 |

| | |
|------------|------------|
| 印刷費 | 200,000円 |
| 事務委託費 | 750,000円 |
| 国際交流費 | 50,000円 |
| 部会補助費 | 350,000円 |
| 経済学会連合 | 35,000円 |
| 予備費 | 100,000円 |
| 小計 | 4,995,000円 |
| 平成23年度への繰越 | 370,000円 |
| 計 | 5,365,000円 |

8. 第15回大会の開催は、震災の発生を考慮して、会長・副会長・実行委員会で慎重に検討した結果、開催を決定したことが実行委員会の長尾理事から報告された。また、いくつかの報告のキャンセルは発生しているが、121名というまずまずの参加者数となったことや、大会関連経費も予算内に納まる見込みであることが報告された。第16回大会の開催大学である摂南大学に所属する平野会員から、オータムコンファレンスを9月10日、第16回大会を2012年3月17-18日に開催したい、またテーマとして「グローバル化下の繁栄と格差」をとりあげたいと説明された。

9. 国際英文誌EIERの有賀編集委員長から第7巻2号の刊行状況が説明された。また、電子投稿審査システムが来年から新しいシステムに移行するので、それに伴い投稿数を年間50本以上にしたいので、会員から活発な投稿をしてほしいとの説明があった。

10. 宇仁理事から、震災被災者への義援金の募金を実施していることが報告され、その送付先については、被災した会員が存在する場合はその方に贈る、存在しない場合は日本赤十字社に贈ることと理事会で決定したことが報告された。また、12月に役員選挙を実施することが報告された。

塩沢理事から、今回の大会の予稿集『進化経済学論集』をみたところ、EIERや過去の『進化経済学論集』への参照が非常に少ないという指摘があった。そして機関誌や大会が、本学会の目的である「経済理論の変革と発展をはかる」ための相互交流と交流の場として機能していないのではないかという懸念が表明された。

以上

先日の名古屋大会で募った震災被災者への義援金は、合計 39691 円集まりました。

振替払込請求書兼受領証

| | |
|--------|---|
| 口座記号番号 | 001408 |
| 加入者名 | 日本赤十字社東北関東大震災義援金 |
| 金額 | 千 百 十 万 千 百 十 円 39691 |
| ご依頼人 | おなまえ 進心経済学会 吉田和男 様 |
| 料金 | 23-04-21 枚方 牧野駅前 郵便局 (41211)07 N91470032 |
| 備考 | 免除 |

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

平成 22 年度部会活動報告

制度とイノベーションの経済学研究部会・活動報告

第 1 回

日時：7 月 18 日（日）午後 1 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩 5 分）

報告者：

1. 武田壮司（京都大学研修員）・八木紀一郎（摂南大学）「NAFTA 下のメキシコ経済と治安問題」
2. 田中宏（立命館大学）「欧州統合とユーロリージョン：越境協力の第 3 段階」
3. 清水耕一（岡山大学）「EU の地域政策における EU-国家-地域間関係と新しい越境地域間協力組織」

第 2 回

日時：10 月 3 日（日）午後 2 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩 5 分）

報告者：

1. 畠山光史（岡山大学・院）「スペインの高失業率の原因に関する一考察」
2. ユイス・バユス（立命館大学）「スペインにおける地域開発と「リスボン戦略」および「ヨーロッパ 2020」の影響」

第 3 回

日時：12 月 19 日（日）午後 2 時～5 時
場所：河合塾京都校（地下鉄烏丸線「烏丸御池」下車徒歩 5 分）

報告者：

1. 徳丸 宜穂（名古屋工業大学）
「欧州の技術政策と技術政策論（Charles Edquist 氏の議論のサーヴェイ）」
2. Annika Styczynski アニカ・スティツィンスキー（ベルリン自由大学環境政策研究所博士課程）
「京都議定書とドイツの環境政策の相互関係」（仮題）（英語）

事務局：徳丸 宜穂(名古屋工業大学)

【2010年度夏季進化経済学会北海道東北部会】

日時：2010年8月21日（土）午後13時00開始
会場：北海道大学人文社会科学総合研究教育棟

スケジュール

・第一報告 吉地望（旭川大学経済学部准教授）

「上川観光のネットワーク分析ーカムイミ
ンタラスタンプリアーに基づく」

・第二報告 河野善文（道都大学経営学部准教授）

「地域通貨と経済厚生に関するモデル分析」
・第三報告 小林大州介（北海道大学大学院
経済学研究科博士後期課程）

「人工物進化の観点からみた技術パラダイ
ムと技術の社会構成主義」

・第四報告 中村宙正（北海道大学大学院経
済学研究科専門研究員）

「金融システムの進化と多元性 序説」

・司会 西部忠（北海道大学大学院経済学研
究科教授）

・参加者：12名

【2010年度冬季進化経済学会北海道東北部会】

日時：2010年3月5日（土）午後13時30開始
会場：北海学園大学7号館

スケジュール

・部会総会

・第一報告 河西勝（北海学園大学経済学部
准教授）

「公開会社の三段階論」

・第二報告 松山直樹（北海道大学大学院経
済学研究科助教）

「マーシャルによるアメリカの産業状態に
関する考察」

・第三報告 西部忠（北海道大学大学院経
済学研究科教授）

‘Community Currencies as Integrative
Communication Media for Evolutionist
Institutional Design’

・司会 吉地望（旭川大学経済学部准教授）
・参加者：7名

2010年度非線形問題研究部会
報告

1. 研究会セミナーの開催

進化経済学会非線形問題研究部会 2010年度
No. 1/2

主催 中央大学企業研究所公開研究会

日 時 2010年6月9日（水）15時
00分～17時00分

場 所 中央大学多摩校舎2号館4階
研究所会議室3

[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/ac
cess_tama_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html)

報告者 服部茂幸氏（福井県立大学経
済学部教授）

テ ー マ 金融政策の失敗ーFRBと日
本の経験

報告者 塩澤由典氏（中央大学商学部
教授）

テ ー マ 需要飽和経済／事実・要因・
対策

進化経済学会非線形問題研究部会 2009年度
No. 3

主催 中央大学企業研究所公開研究会

日 時 2011年3月14日（月）15
時00分～17時00分

場 所 多摩校舎2号館4階研究所会
議室1

交 通 マ ッ プ

[http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/ac
cess_tama_j.html](http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/access/access_tama_j.html)

キャンパスマップ

http://www.chuo-u.ac.jp/chuo-u/campusmap/tama_map/index_j.html

報告者 Witt Ulrich 氏
(Max Planck Institute of Economics, Director)

テーマ Novelty and the bounds of unknowledge in economics

推薦チーム 現代社会経済危機と複雑系企業システム (主査 有賀裕二)

参考文献

- (1) Witt, U., Novelty and the bounds of unknowledge in economics, Journal of Economic Methodology, 16(2009), 361-375
- (2) Witt, U., Propositions about novelty, Journal of Economic Behavior & Organization, 70 (2009), 311-320

[備考]

[evoecojapan.1694] Prof. Witt 教授の中央大学セミナー中止のお知らせ

会員各位

誠に残念ではございますが、地震による影響のため、中央大学多摩キャンパスでの Prof. Witt のセミナーを中止いたします。

開催予定場所であった中央大学多摩キャンパス 2号館(研究棟)では、地震のため、個人研究室の書架が倒れ、一部で入室できない被害が発生しました。そのため、12, 13 日は入校禁止措置が採られ、現在、被害を確認中です。

セミナー開催の 14 日には入校禁止措置は解除されると思いますが、以下の事情で、セミナー開催は困難な状況と判断いたしました。

- (1) 後片付け等で周囲の環境が騒がしい。また、一般の参加者が参加しにくい状況が想定される。
- (2) 東日本地域で参加予定であったメンバーの方々が、交通機関の事情で、出席不可能となった。
- (3) 都内の交通渋滞のため、荷物を持って移動される Prof. Witt の移動に困難が生じる可能性がある。

すでに Witt 先生には中止のご了解を得ました。Witt 先生も残念がっておられますが、翌日、ご帰国の予定です。

いまだ不確定要素もありますので、時間的余裕を持って行動していただくためにも、やむをえず、開催中止の判断をいたしました。

ご関心をお持ちいただいた方々には誠に申し訳なく思っております。

有賀裕二 拝

2. 会計報告

収入の部

| | | |
|-------|--------|--------|
| 繰越金 | 39,254 | 前期より繰越 |
| 部会補助費 | 50,000 | |
| 収入合計 | 89,254 | |

支出の部

| | |
|------|--------|
| 次期繰越 | 89,254 |
| 支出合計 | 89,254 |

備考

Prof. Witt への謝礼分がセミナー中止によって未払いとなった。

このあとに監査人の署名

吉田雅明

非線形問題研究部会 有賀裕二 (文責)

観光学研究部会活動報告

平成 22 年度において、観光学研究部会では以下通り研究活動を行った。

第 7 回研究会

日時 2010 年 7 月 10 日 (土)

場所 早稲田大学 29-7 号館

講演 1 古屋順子(フリーライター、フリー編集者) ”中国語圏における観光ガイドブック編集の難しさ”

講演 2 駒木 伸比古(首都大学東京) ”地方都市における大型店立地と地域変容—これからのまちづくりを考えていく手がかりとして—”

第 8 回研究会

日時 2010 年 12 月 11 日 (土)

場所 日本大学経済学部

講演 1 【招待講演】 関口 伸一(トップツアー(株)専門課長) 「実務家が教壇に立つ意義 1 “—「実」と「学」を行き来することでみてくるもの—”」

講演 2 井上 泰日子(元日本航空人事部長) 「実務家が教壇に立つ意義 2 “大学の教育をどう考えるか(企業人の視点から)”」

第9回研究会

日時 2011年3月18日(金)
 場所 愛知大学車道キャンパス (日本観光学会中部支部と共催)

【招待講演】小宅 一夫(名古屋観光コンベンションビューロー観光部長)「名古屋の観光政策」

いずれもかなりの盛況であり、今後も部会活動を活性化していきたいと考えている。今年度は、以下の予定で活動する。7月福岡、9月大阪、12月東京で研究会を開く予定であるが、詳細は部会WEBサイトを参照されたい。
<https://sites.google.com/site/evolutionarytourism/home>

2010年度 進化経済学会 「現代日本の経済制度部会」報告

2010年度の「現代日本の経済制度部会」は以下の日程で2回開催された。

第一回

この研究会では、学会員の著書3冊の合評会を行った。

日時: 6月12日(土) 13:00~17:30

場所: 名古屋大学経済学部 第一会議室
 報告内容は以下の通りである。

1. 藤田菜々子著『ミューダールの経済学—福祉国家から福祉世界へ』

評者: 宇仁宏幸氏(京都大学)

2. 中原隆幸著『対立と調整の政治経済学—社会的なるもののレギュレーション』

評者: 山本泰三氏(愛知大学/四天王寺大学・非)

3. 遠山弘徳著『資本主義の多様性分析のために—制度と経済パフォーマンス—』

評者: 原田裕治(名古屋経済大学)

第一報告については、累積因果連関を巡る著者の見解が、マクロ経済学一般で認知されているその概念とやや異なっていることが指摘され、著者の藤田氏からその違いに関する説

明がなされた。第二報告については、「象徴的媒介とは何か」という点に議論が絞られ、その概念的あいまいさが指摘されると同時に、経済学分析における政治的決定過程をどのような制度的枠組みに従って構築されるかが議論された。第3報告については、制度の多様性を巡る議論が行われ、新古典派経済学においても「制度多様性概念の吸収とその応用の諸実践」の研究が進行している、との意見が出された。なお参加者は20名ほどであった。

第二回

第一回に引き続いて、会員著書の合評会を行った。

日時: 2月28日(月) 13:00~17:00

場所 京都大学 経済学部 101 演習室

報告内容は以下の通りである。

1. 「清水耕一著『労働時間の政治経済学』(名古屋大学出版会)を読む」

評者: 平野泰朗(摂南大学)

2. 「宇仁宏幸・山田鋭夫・磯谷明德・植村博恭著『金融危機のレギュレーション理論: 日本経済の課題』(昭和堂)を読む」

評者: 中原隆幸(四天王寺大学)・原田裕治(名古屋経済大学)

第一報告では、フランスにおける「35時間法」の歴史的成立過程とその実践過程が詳細に検討され、フォーマルなルールである「法律」とは別のインフォーマルなルールが「労使妥協」に基づいて形成され、実効性を担保していることが明らかにされた。第二報告では、「企業主義的レギュレーション」から「金融主導型レギュレーション」への移行を巡り、その理論的かつ実証的な分析が検討された。とくに、その以降の画期がその時代に見いだせるのか否かを巡り、活発な議論が行われ、それは「おおむね1995~7年」にかけてではないかとの主張が、著者たちからなされた。参加者は25名ほどであった。

以上

(文責: 中原隆幸)

企業・産業の進化研究部会報告

「企業・産業の進化研究部会」では、経営学と経済学の事例紹介・交流にとどまらず、そこから新たな理論として何を打ち出すことができるのかを模索し、さらに一步踏み込んだ学融合を目指して、進化経済学の描くべき人間像、組織のとらえ方、科学哲学にいたるまで幅広く活発な議論が行われている。開催場所は、東京大学ものづくり経営研究センター（東京大学経済学研究科学術交流棟（小島ホール5階））、日時・テーマは学会MLで案内される。昨年4月以降に行われた部会（テーマと報告者）は以下のとおりである。

第6回：4月7日（水） 宮本光晴氏（専修大学経済学部教授）

「日本の雇用システムと企業統治：ポストバブルからポストリーマンまで」

第7回：6月15日（火）生稲史彦氏（文京学院大学経営学部准教授）

「開発生産性のディレンマ—デジタル化時代のイノベーション・パターン」

第8回：7月14日（水）吉田雅明氏（専修大学経済学部教授）

「進化経済学 基礎概念・基本モデル・科学方法論」

第9回：10月20日（水）塩澤由典氏（中央大学商学部教授）

「ロングテールと産業の多様性」

第10回：12月9日（木）岸田民樹氏（名古屋大学大学院経済学研究科教授）

「組織化と進化プロセス」

第11回：2月3日（木）

報告1 香村由紀氏（進化経済学会会員）

「需要不足と、機械の記述枠—経済での、物の作用/構造と意味—」

報告2 吉田 雅明氏（専修大学教授）

「進化経済学の基本モデルのために」

第12回：4月20日（水）柴田徳太郎氏（東京大学大学院経済学研究科教授）

「「慣習」に依存し「慣習」を「創発」する人間像—経済人仮説を超えて—」

進化経済学会の現状について

塩澤由典

進化経済学会は、大会が15回、英文誌EIERも、7巻通巻13号を数えます。進化経済学会の現状を調べるために、簡単な引用分析をしてみました。

まず、第15回名古屋大会の報告要旨（『進化経済学論集』CD）。報告が全部で77本。これらのうち、「進化経済学」に報告中で触れているもの24本、本学会への言及が51回ありました。進化経済学とは別に「進化」についてのみ触れたものは392箇所、evolutionへの言及も、110箇所ありました。しかし、本学会の活動との関係では、過去の『進化経済学論集』掲載論文を引用しているもの3本、進化経済学会が出版した本への言及は計5本しかありません。学会が力を入れている英文誌(EIER)の論文への言及も、全部で5回しかありませんでした。

EIER自身ではどうでしょうか。EIERは、2004年に創刊号が出ています。それから3年たった2007年の第4巻から、最新の第7巻第1号までの計7号について調べてみました。全部で59本の論文・ノート・書評などのうち、日本人の名前によるものが35本。これで見ると、平均としては会員の貢献がかなりあります。しかし、それら論文等の文献表(総本数28)で見ると、全文献数560本のうち、日本人著者をふくむもの145件、このうち著者自身の論文の掲載が51本あります。しかし、これだけの文献が参照されいながら、EIERを採用したものは(外国人寄稿の論文を含めて)わずか3本しかありません。

簡単な調査ですが、ここからいくらかの傾向が読み取れます。進化経済学会は、「進化」を主題にするという意識は遍在しているようですが、進化経済学としてどうあるべきかについては、関心が薄いようです。さらに、進化経済学をどのように発展させていくかについて、自分

達たちの問題意識を育てていこうという気持ちも希薄に思われます。学会での報告も、日本語の出版物も、またEIERの論文も、ほとんど参照されていません。これはどうしたことでしょうか。

外国の文献を読んで解釈すればいい。著名な研究者が取り上げた問題を追いかけていればいい。こんな意識がまだ残っているのではないのでしょうか。15年前に進化経済学会を立ち上げたとき、自分達の手で進化経済学という新しい学問を創造していくと決意しました。その決意が失われていないのでしょうか。薄れていないのでしょうか。

最近、西部忠・吉田雅明さんたちによる『進化経済学 基礎』、谷口和久さんによる『生産と市場の進化経済学』ができました。二つとも、進化経済学の全体像を示そうとした労作です。感心するところも不満も、もちろんあります。こうした機会に、進化経済学とはなにか、進化経済学は現代の課題にいかに応えることができるのか、について大いに議論を巻き起こそうではありませんか。自分達の中から新しい問題・課題を育てていけるような学会になることを望んでいます。

 名簿訂正（訂正事項のみ記載）

| 名簿訂正 | 会員名 | 変更箇所 | 住所／種別 | TEL/FAX/e-mail | 所属名 |
|------|--------|------------|-------|----------------|---|
| | 梅澤 直樹 | 自宅住所 | | | |
| | 鄭 裕勲 | 所属先、種別 | | | Industrial Program Evaluation Team National Assembly Budget Office |
| | 大堀 耕太郎 | 種別 | | | |
| | 金森 絵里 | 自宅住所 | | | |
| | 白石 浩介 | 所属先住所のみ | | | |
| | 小湊 卓夫 | 所属先、種別種別 | | | 九州大学高等教育開発推進センター 高等教育開発部 |
| | 鈴木 信貴 | 所属先 | | | 京都大学医学研究所[医学領域]産 学連携推進機構 メディカルイノベー ション推進室 |
| | 松波 京子 | 自宅住所 | | | |
| | 小林 重人 | 自宅住所 種別 | | | |
| | 福田 順 | 種別 | | | |
| | 江里口 拓 | 自宅住所、所属 | | | 西南学院大学経済学部 |
| | 駒木 伸比古 | 所属先 | | | 愛知大学 地域政策学部 |
| | 上浦 基 | 所属先 | | | 東京電機大学理工学部情報システム デザイン学系 |
| | 吉野 裕介 | 自宅住所、所属 | | | 京都大学大学院文学研究科 |
| | 塚本 恭章 | 自宅住所、所属、種別 | | | 愛知大学経済学部 |
| | 延東 洋輔 | 自宅住所 | | | |
| | 牧野 邦昭 | 自宅住所 | | | |
| | 小笠原 春菜 | 自宅住所 | | | |
| | 深見 聡 | 所属先 | | | 長崎大学大学院水産・環境科学総合 研究科環境科学領域 |
| | 八巻 恵子 | 自宅住所 | | | |
| | 砂川 和範 | 自宅住所 | | | |
| | 本吉 祥子 | 自宅住所 | | | |
| | 原田 裕治 | 所属先 | | | 福山市立大学都市経営学部 |
| | 只友 景士 | 所属先 | | | 龍谷大学政策学部 |
| | 井出 明 | 自宅住所、所属 | | | 追手門学院大学経営学部 |

新規入会者

| 会員名 | フリガナ | | 発送先号 | 発送先一住所 | 所属機関名 | 推薦会員 |
|--------------|------------|------------|----------|--------|---|------------------|
| 高野 直樹 | Takano | Naoki | 179-0074 | | 横浜国立大学大学院 国際社会科学研 究科グローバル経済専攻 | 植村 博恭先生、大熊 一寛先生 |
| 牧野 邦昭 | Makino | Kuniaki | 540-0011 | | 摂南大学経済学部 | 八木 紀一郎先生、平野 泰朗先生 |
| 松波 京子 | Matsunami | Kyoko | 464-0083 | | 名古屋大学大学院経済学研究科 | 長尾 伸一先生、西本 和見先生 |
| Mu-Jeong Kho | Mu-Jeong | Kho | | | Development Planning Unit,Bartlett Faculty of Built Environment,University College London (UCL) | 吉田 和男先生、宇仁 宏幸先生 |
| 李 征 | Ri | Sei | 606-8315 | | 京都大学経済学研究科 | 宇仁 宏幸先生、福田 順先生 |
| 渡辺 直行 | Watanabe | Naoyuki | 155-0033 | | 財団法人 土地総合研究所 | 吉田 和男先生、宇仁 宏幸先生 |
| 和田 謙一郎 | Wada | Kenichiro | 547-0042 | | 四天王寺大学 人文社会学部 | 中原 隆幸先生、宇仁 宏幸先生 |
| 吉中 季子 | Yoshinaka | Toshiko | 558-0052 | | 大阪体育大学 健康福祉学部 | 中原 隆幸先生、宇仁 宏幸先生 |
| 北沢 良継 | Kitazawa | Yoshitsugu | 813-8503 | | 九州産業大学経済学部 | 磯谷 明徳先生、岡村 東洋光先生 |
| 畠山 光史 | Hatakeyama | Akinobu | 671-2222 | | 岡山大学経済学研究科 | 清水 耕一先生、宇仁 宏幸先生 |

新著案内

谷口和久会員、有賀裕二会員、正木響会員から新著の案内が届きました。いずれも進化経済学の研究成果を示すものですので、是非ともお買い求めください。

1. 谷口和久 『生産と市場の進化経済学』 共立出版, 2650 円

http://www.kyoritsu-pub.co.jp/shinkan/shin1104_02.html

2. Volker Caspari eds. “The Evolution of Economic Theory Essays in Honour of Bertram Schefold” Series: Routledge Studies in the History of Economics

<http://www.routledge.com/books/details/9780415596831/>

Table of Contents

Introduction Volker by Caspari

Part 1: Marxian and Sraffian Economics

1. Sraffa and the Universal Basic Income by Guglielmo Chiodi
2. The Long-Period Method and Marx’ sTheory of Value by Duncan K. Foley
3. Exhaustible Resources: Rents, Profits, Royalties, and Prices by Heinz D. Kurz and Neri Salvadori

Part II: Capital Theory

4. On the Recent Debate on Capital Theory and General Equilibrium by Fabio Petri
5. Capital ‘Perversities’ in a One (New) Commodity by ModelIan Steedman

Part III: History of Economic Thought

6. Walras-Cassel, the German Connection Revisited by Alain Alcouffe
7. Knut Wicksell’ s Principle of Just Taxation RevisitedCharles by B. Blankart and Erik R. Fasten

Part IV: Macro and Applied Economics

8. The Matching of Interactive Agents in the Futures Stock Market and the U-Mart Experiment by Yuji Aruka and Yuhsuke Koyama
9. Macroeconomics with Non-Clearing Labour Market by Willi Semmler and Gang Gong
10. Choosing between foreign investment and subcontracting: Strategies of Italian firms in Romania by Giuseppe Tattara

3. アオキ・マサナオ著 有賀裕二監訳, 「マクロ進化動学と相互作用の経済学」
中央大学出版部 <http://www.amazon.co.jp/マクロ進化動学と相互作用の経済学-マサナオ-アオキ/dp/480573311X>

4. 井野瀬 久美恵・北川 勝彦 編著『アフリカと帝国—コロニアリズムの新思考に向けて—』晃洋書房、2011年 978-4-7710-2172-3 3800円(税別)
<http://www.koyoshobo.co.jp/backnumber/detail.php?isbn=2172-3>

内容：

英国議会資料として蓄積された膨大な情報を読み直し、帝国の語りと記述を超える試み。歴史意識と 現在意識を相互に照射しつつ、分割・支配されたアフリカの多様な植民地経験に切り込み、コロニアリズム研究に新境地を開く。そこに、支配の呪縛を乗り越える鍵も見えてくる。

目次：

序章 コロニアリズム研究の新思考にむけて (井野瀬久美恵)
第I部 「分割」と「支配」の後遺症—帝国の語りと記述を超えて—
第1章 アフリカ史におけるコロニアリズム研究の再中心化—記述と枠組みの新機軸に向けて) (ポール・ティヤンベ・ゼレザ)
第2章 ジンバブウェ史研究の黄金時代とその衰退—1967年から現在まで— (ヌグワビ・ムルンゲ・ベベ)
第3章 帝国の遺産 —イギリスに対する帝国の余波— (アンドリュー・トムソン)
第4章 「他者」への想像力—大日本帝国の遺産 相続人として— (成田龍一)

第II部 植民地「分割」の解剖—境界確定のポリティカル・エコノミー—
第5章 英領ガンビアの対仏割譲交渉とその社会経済史的背景 (正木響)
第6章 トーゴをめぐる植民地境界確定と政治的アイデンティティ形成 (岩田拓夫)
第7章 境界線確定とイギリス帝国内の確執—利用されるレソトの声— (西浦昭雄)

第III部 植民地「支配」の構造とエージェント—エリートから底辺まで—
第8章 藪の中—語られるシエラレオネ小屋税戦争のリアリティへ— (落合雄彦)
第9章 帝国による「保護」を巡る現地エリートの両義性—初期植民地期イギリス領ゴールドコーストの事例から— (溝辺泰三)
第10章 二〇世紀初頭タンガニーカのトリロジー—大英帝国、伝道界、そして植民地の人びと— (小泉真理)
第11章 二〇世紀初頭西南アフリカにおける二つの植民地主義—ブルーブック論争—から— (永原陽子)
第12章 南部アフリカにおける支配の重層構造 —ポルトガル領モザンビークにおける南アフリカ金鉱業の労働力調達— (網中昭世)

あとがき
参考文献
事項索引

進化経済学会 オータムカンファレンスのご案内

場所：摂南大学経済学部

日時：2011年9月10日

摂南大学へのアクセス <http://www.setsunan.ac.jp/s/access/>

学内地図 <http://goo.gl/maps/uk7X>

1. 特別講演

講師：アラン・リピエッツ（フランス緑の党経済顧問等）

テーマ：“Fear and desire. On the acceptability of a Green Deal.”

今日の経済危機下におけるエネルギー・環境政策等を論じる。

2. シンポジウム

テーマ：大都市圏の形成と社会変容

産業集積としての大都市圏の形成要因とそれが引き起こす他地域への経済的影響および都市圏内部の社会的変容の問題（都市インフラ、地域医療、子育て支援体制、貧困問題等）を考察する。

シンポジスト：3名を交渉中

進化経済学会サマースクールのご案内

2011年度「若手研究者による講演：進化概念と経済学説・経済思想」

日時 2011年9月9日（金曜） 14:00～（受付開始13:30～）

会場 摂南大学10号館6階の1061教室

摂南大学へのアクセス <http://www.setsunan.ac.jp/s/access/>

学内地図 <http://goo.gl/maps/uk7X>

プログラム

1400 開会挨拶 若手育成担当江頭進さん〔小樽商科大学〕

1410 参加者自己紹介 30人・@30秒=15分程度

1430 牧野邦昭さん「進化の概念について：近代日本思想史から」

（摂南大学講師，近著『戦時下の経済学者』中公叢書，2010年）

1530 休憩

1540 藤田菜々子さん「進化とミュルダール経済学」

（名古屋市立大学准教授，近著『ミュルダールの経済学—福祉国家から福祉世界へ』NTT

出版，2010年）

1640 休憩

1700 意見交換

1750 終了

1900 懇親会（会場未定，京阪寝屋川市駅周辺）

=====

進化経済学会サマースクール担当
小山友介〔芝浦工業大学〕
小川一仁〔関西大学〕
吉野裕介〔京都大学・GCOE 研究員〕

編集後記

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。今回も皆様のご協力をもちまして、無事完成までこぎ着けることができました。

早いものでニューズレターを担当して4年が経ちました。今回の編集をもちまして、私はお役御免とさせていただきます。

次号以降のニューズレター編集は金沢大学の瀬尾崇会員が担当します。よろしくお願い申し上げます。

編集担当・小川一仁(関西大学社会学部)